



## A、実施の経過

伊藤 小糸

十一月十九日の午前九時から三時間、市民の会の伊藤修二さんを講師として、会主催の巡検が行われました。

健脚向きコースと予告して募集したところ、参加者は十五名、うち女性は七名でした。駐車場の都合から、会長の車を始めとする三台に分乗して集合し、市清掃センター脇からは徒歩で、隧道を抜けて屏風ヶ浦の海岸に向けて出発しました。

潮時を選んでもお潮位も高めでした。さらに、十月の台風二十一号の影響で、屏風ヶ浦の崖は随所で崩落していました。

始めの裡は消波ブロックの上にコンクリート板を載せた消波堤の上を進みましたが、内湾から外海方向へ進むに連れ、徐々に板が海側に傾き、波飛沫を浴び

が引いたら砂浜を速足で通り抜け、消波ブロックの隙間を抜けた波が寄せて来たら崩落した大小の岩塊を伝って歩きました。

大谷津のテラス前に着き、消波ブロックを伝って再び消波堤の上りました。以後は、切通しの急坂を登り、ドーバーラインに出て帰途に就きました。

した。そのため、消波堤から下りる場所を変更しましたが、段差があつて苦労された参加者の方もいたようです。潮位は午前中に干潮があり、最終的に予定通り、大谷津切通下の消波堤を登って無事帰ることができました。

主催者の方には傷害保険や配車等でいろいろご配慮頂き、感謝いたします。

⑥ 屏風ヶ浦は遠くから見れば美しいが近い、と今更ながら気付いた。

⑦ 少なくとも今年に一度は、今回のような剥き出しの自然を観察できる企画を実施して欲しい、楽しみにしている。日頃、

## 屏風ヶ浦巡検のまとめと今後

て緑の苔が生えている個所では靴も滑りがちになりました。

消波堤の上が大波を被つて危険になったため、途中から消波ブロックを伝って砂浜へ下りました。この時点で、リタイア組四名は元来た道に戻りました。残る男子七名女子四名は、波

が引いたら砂浜を速足で通り抜け、消波ブロックの隙間を抜けた波が寄せて来たら崩落した大小の岩塊を伝って歩きました。

⑧ 遭難に備えて、目立つ色のジャンパーとヘルメットの着用が正解だった。

⑨ 捻挫する人が出なくてホッとした。

⑩ 今回の巡検は会の主催だったが、今後は有志主催にすれば、参加ハードルの高いイベントに対する会への批判を回避できる。

⑪ 事前説明会を開いて、現地情報と装備と岩場歩きや浅瀬徒渉のコツを伝え、万一のための支援体制を整えてリスクを減らした上で、今後とも地学的な巡検を開催出来れば良いと思う。



消波ブロックを登る

消波堤の上が大波を被つて危険になったため、途中から消波ブロックを伝って砂浜へ下りました。この時点で、リタイア組四名は元来た道に戻りました。残る男子七名女子四名は、波が引いたら砂浜を速足で通り抜け、消波ブロックの隙間を抜けた波が寄せて来たら崩落した大小の岩塊を伝って歩きました。

② スランプ構造が沢山あつて驚いた。  
③ 春日層の剥離の様子に興味を持った。  
④ 消波堤があつても、大雨が降れば崖は大規模に崩落することを実感した。

⑤ イソギクに彩られ、ガニが暮らす人気の屏風ヶ浦が、緩やかな衰退過程にあることを確認し、今後の推移を見守りたいと思った。

⑫ 似通った景色が続く、途中から前進する意欲を無くした。  
⑬ 崖や砂浜に溶け込む色の服装で、部外者に目立たないイベントにして欲しかった。



断層の解説